

令和4年度 校内研修 現職教育について

R04. 4. 1

令和4年度は、野田小学校が市教委「読解力向上推進事業」研究指定校2年目となり、10月28日（金）に授業公開があります。本校は、その協力校2年目になり、野田小学校の研究パートナーとなります。

昨年度も行いましたが、6月に1・2年生がリーディングスキルテスト（RST）を受検することになります。

1 研究の内容について

令和4年度研究主題・副主題

一人も取り残さない「わかる」授業システムの構築 ～リーディングスキル・自力解決・振り返りを通して～

『一人も取り残さない』とは、学級の生徒全員が授業に参加できる状態を指します。そのために、導入段階の学習課題の設定に力を入れていきます。具体的には、**学習課題の「共書き」を行い、文言の中の生徒にとって「親密度の低い言葉を取り上げる」**ことです。

以下の通り4月当初の授業から実践していきます。

- 1) 2分前着席
- 2) 1分前学習
- 3) 【共書きの手順】
 - ① 授業者が学習課題を生徒に聞こえるように**ゆっくり**言う。
 - ② 「先生と同じスピードで学習課題を書きます。先生が書き終わると同時に書き終わるように書きましょう。」と言って、授業者が学習課題を**ゆっくり**と板書する。
 - ③ （学習課題をみんなで声を合わせて読む。）
- 4) 【親密度の低い言葉を取り上げる】

「課題の中に、意味の分からない言葉はありませんか。」と聞き、出てきた言葉について、説明したり生徒に問いかけたりして、全体で意味を確認する。

※生徒から出てこない場合は、教師側から**親密度の低い**と思われる言葉を取り上げる。

意味がわかりにくい言葉
生徒が使わない言葉

「わかっているだろう」「わかるはずだ」という前提に立たないことが大事です！

「共書き」は、学習課題を設定するような通常の授業の開始に合わせて行います。4月と5月が勝負です。そのために、本日4/1に提案しています。

○ 副主題「～リーディングスキル・自力解決・振り返りを通して～」について

(1) 「リーディングスキル」とは

「リーディングスキル」(以下、RS)とは、「汎用的な基礎的読解力であり、教科書や新聞、マニュアルや契約書等のドキュメントの意味及び意図を迅速かつ正確に読み取る力」を指す(『令和3年度 学校教育の重点』, 福島市教育委員会)。RSの「6つの視点」の中でも最も基本となる「係り受け解析」と「照応解決」を常に意識しながら授業を進める。それは、本校の生徒の実態から約半数の生徒が教科書を読めていない可能性があり、生徒は、自分にとって親密度の低い言葉が出てきた段階で「わからない」状態になり、そこから前に進むことができないことが多い。教科書や学習課題における親密度の低い言葉を確認することで、生徒の学習課題に対する理解も深まるものとする。

(2) 「自力解決」とは

「自力解決」とは、教師の指導の下(『指導5』), 学習課題や発問に対する自分の考えをもつことができることを指す。そのために、教員が「発問の吟味・精選」を行い、「意図的な机間指導」を行った上で、生徒の「学びを深める働きかけ」を行う(『令和3年度 学校教育の重点』, 福島市教育委員会)ことが重要である。また、生徒が学習課題に向き合うためには、全ての生徒にじっくりと考えさせる時間の確保が必要となってくる。その上で自分の考えを級友と共有したり、吟味したりする場として「発表・話し合い」の場を設定することで、自分の思考が深化していく。

(3) 「振り返り」とは

「振り返り」とは、授業の最後の段階で、生徒が自分自身で学んだことや新たに気づいたことを自覚させる場のことである。この「振り返り」がないと、その授業で生徒が学んだことがぼやけてしまい全ての生徒が「わかる」授業にならない。往々にして教員は、授業中にしゃべりすぎてしまい、この「振り返り」の時間が持たなくなることが多い。この時間を充実させるためには、一単位時間の中で時間を確保させなければならない。自ずと教員は授業中にしゃべりすぎず、発問や指示を繰り返さず、不要な言葉も減らしていくことが重要となる。また、学習課題とリンクした振り返りの視点を明確にしていくことで、生徒が、「わかる」授業に近づくと考える。

○ 研究仮説について

各教科の授業において、次の手立てを講じれば、生徒にとって「わかる」授業を展開することができるであろう。

〈手立て①〉学習課題の共書きを行い、文言の中の生徒にとって親密度の低い言葉を取り上げる。

〈手立て②〉全ての生徒がじっくりと考えることができる学習課題を吟味し、自力解決の時間を保障し、考えたことを書かせるようにする。

〈手立て③〉振り返りの時間を確保し、視点を明確にして生徒に書かせる。

(※教育計画より抜粋)

2 今後の予定について

4月 職員会議(4/1(金)) 研究主題・副主題等の提案

「共書き」, 「親密度の低い言葉を取り上げる」の実践開始

各教科の研究計画の作成(別紙参照) **※5/9(月)まで**

5月 現職教育協議会(5/11(水)) 研究内容の詳細の提案

～11月中 一人2回以上の研究授業の実施

<研究授業の実施方法>

○パターンA 違う単元で1学期に1回, 2学期に1回行います。あるいは, 1学期に2回, 2学期に2回行います。通常の一般的なパターンです。

○パターンB 同じ単元の中で2回行います。2回目の研究授業の学習指導案に関して, 1ページ目は若干の追加・修正で済みます。

○パターンC 研究授業を1回実施します。その結果を受け, 学習指導案を修正し, 違うクラスで2回目を実施します。授業を行った結果, 「こうすればよかった」というものを違うクラスで実際にやってみるといことです。そのためには, クラス間の進度の差が必要となります。